

歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

急性期病院歯科の 現状と課題



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

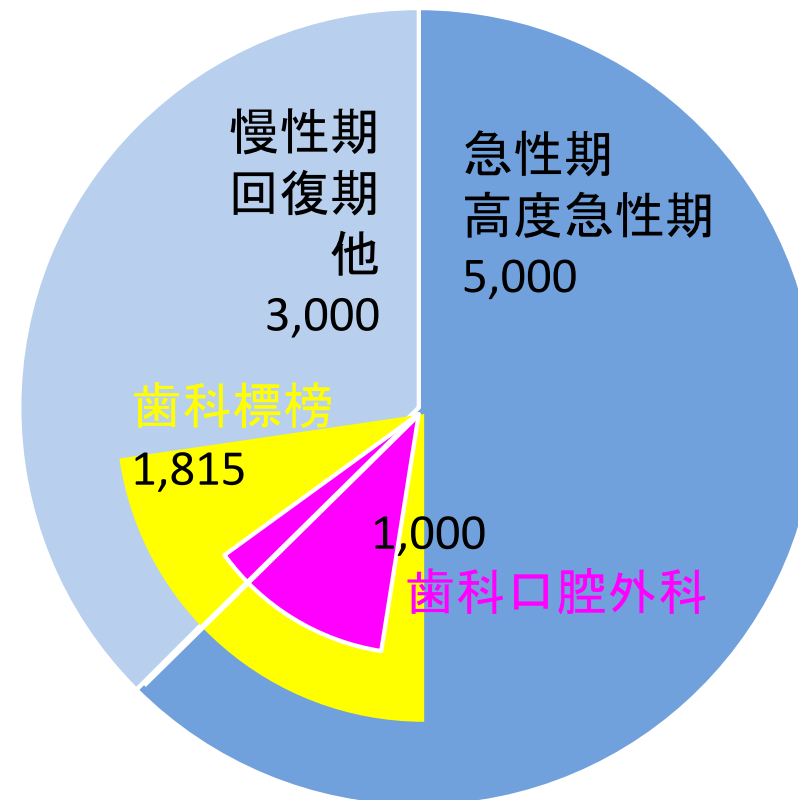
全国の病院数 : 約8,000*
急性期・高度急性期 : 約5,000**
慢性期・回復期・他 : 約3,000**

歯科標榜 : 1,815 (22%) *
歯科口腔外科 : 約1,000 (13%) *

急性期病院の歯科の多くは
歯科口腔外科と考えられる。

* : 厚労省資料から

** : 病床数から推計



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



現状

病院機能からみた歯科の役割

急性期病院

- ・ 地域医療機関からの炎症・外傷などの救急医療を要する疾患
- ・ 抜歯を要する歯性疾患，とくにいわゆる有病者や障害者
- ・ 腫瘍，奇形・変形，嚢胞，口腔粘膜疾患，顎関節疾患など
手術や薬物療法を必要とする疾患
- ・ 周術期口腔機能管理・口腔ケア

慢性期・回復期病院

- ・ 口腔衛生管理・口腔ケア
- ・ オーラルフレイル対策
- ・ いわゆる有病者の一般歯科治療

根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

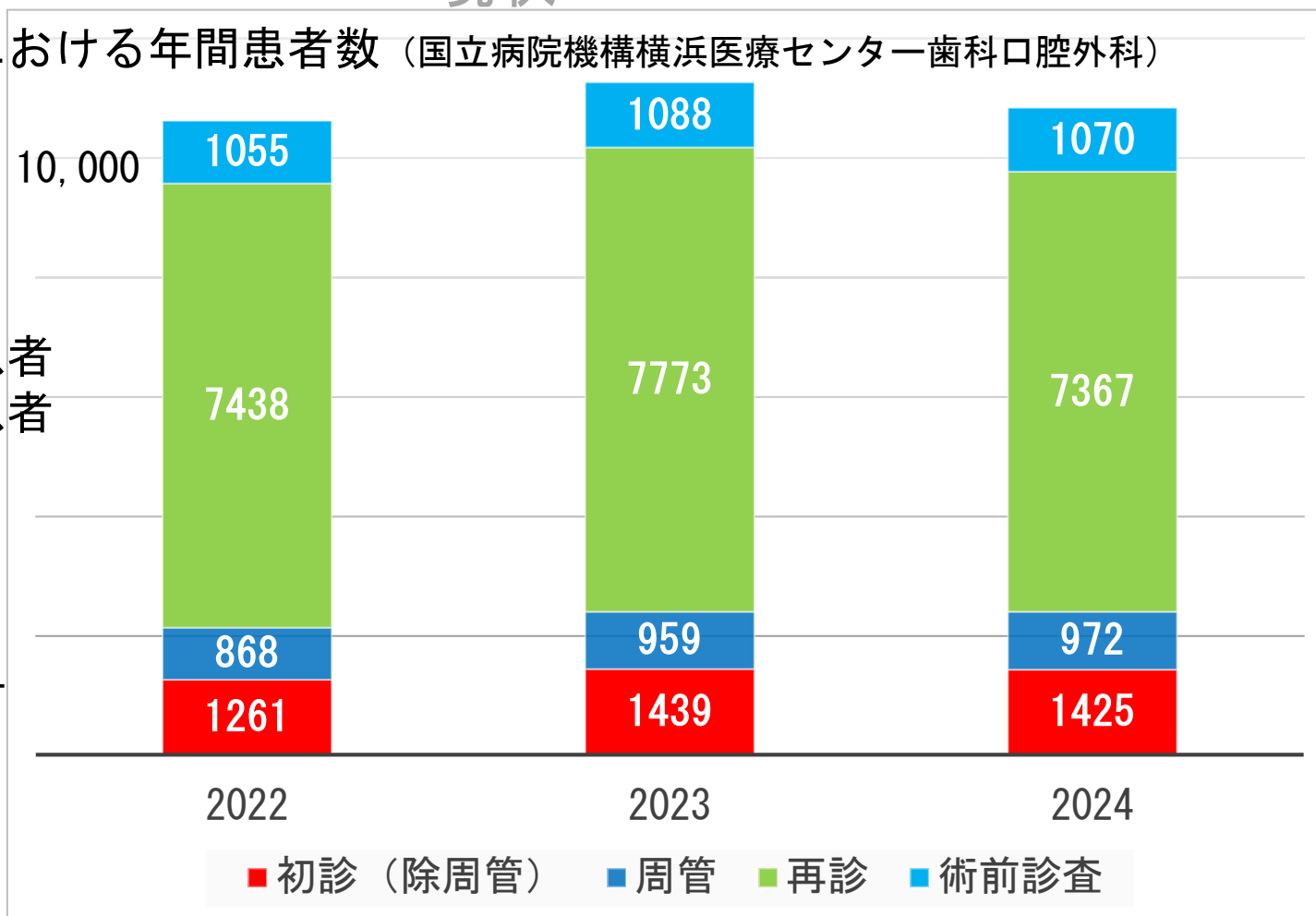
2025/10/16

現状

ある急性期病院における年間患者数（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名

初診（除周管）
院外紹介初診患者
院内紹介初診患者
周管
院内紹介初診
周管依頼患者
再診
全ての再診患者
（周管含む）
術前診査
周管非対象の
全麻術前患者



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



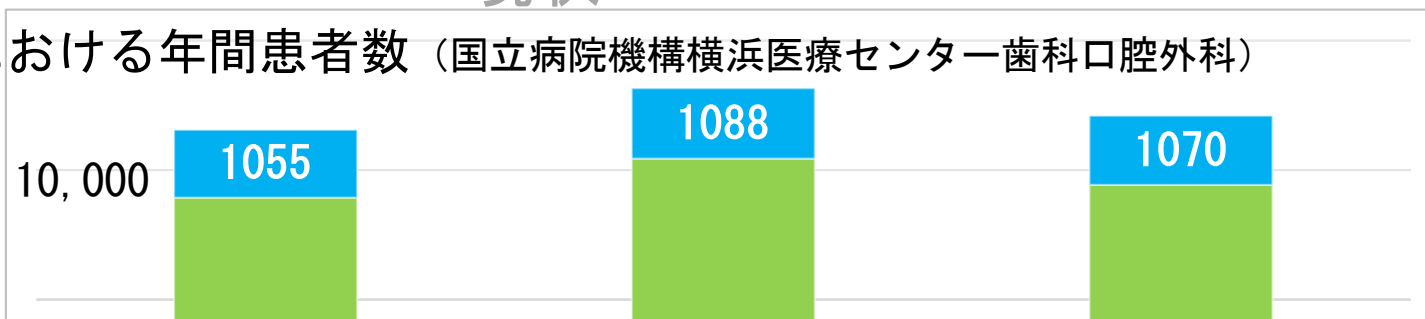
歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

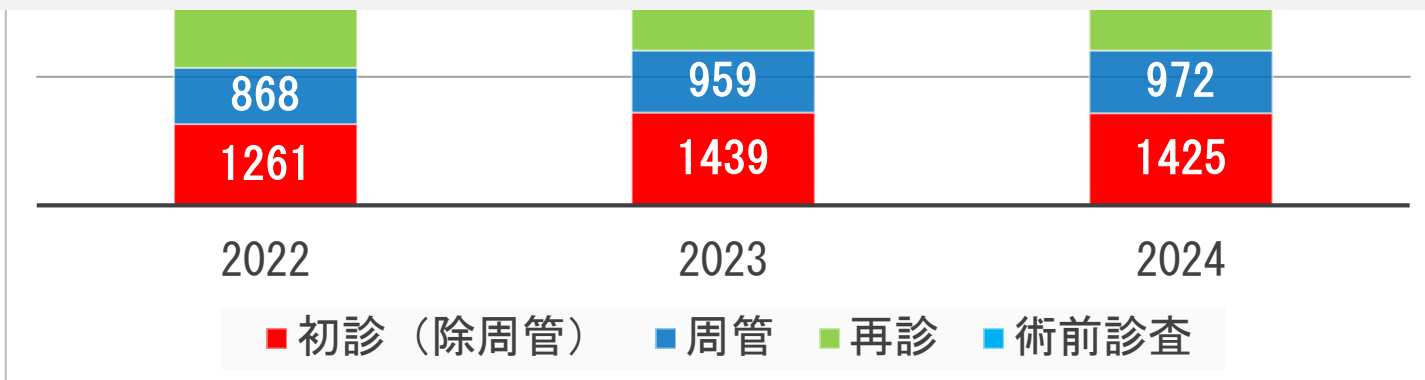
ある急性期病院における年間患者数（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名



問題点

- ・ 歯科医師2名での診察・処置，衛生士1名での処置では時間がたりない。
→ 働き方改革に逆行するような超勤が必要。
- ・ 歯科医師1名＝一人医長の施設では対応できる疾患がより制限されてしまう。



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



歯科医療提供体制等に関する検討会

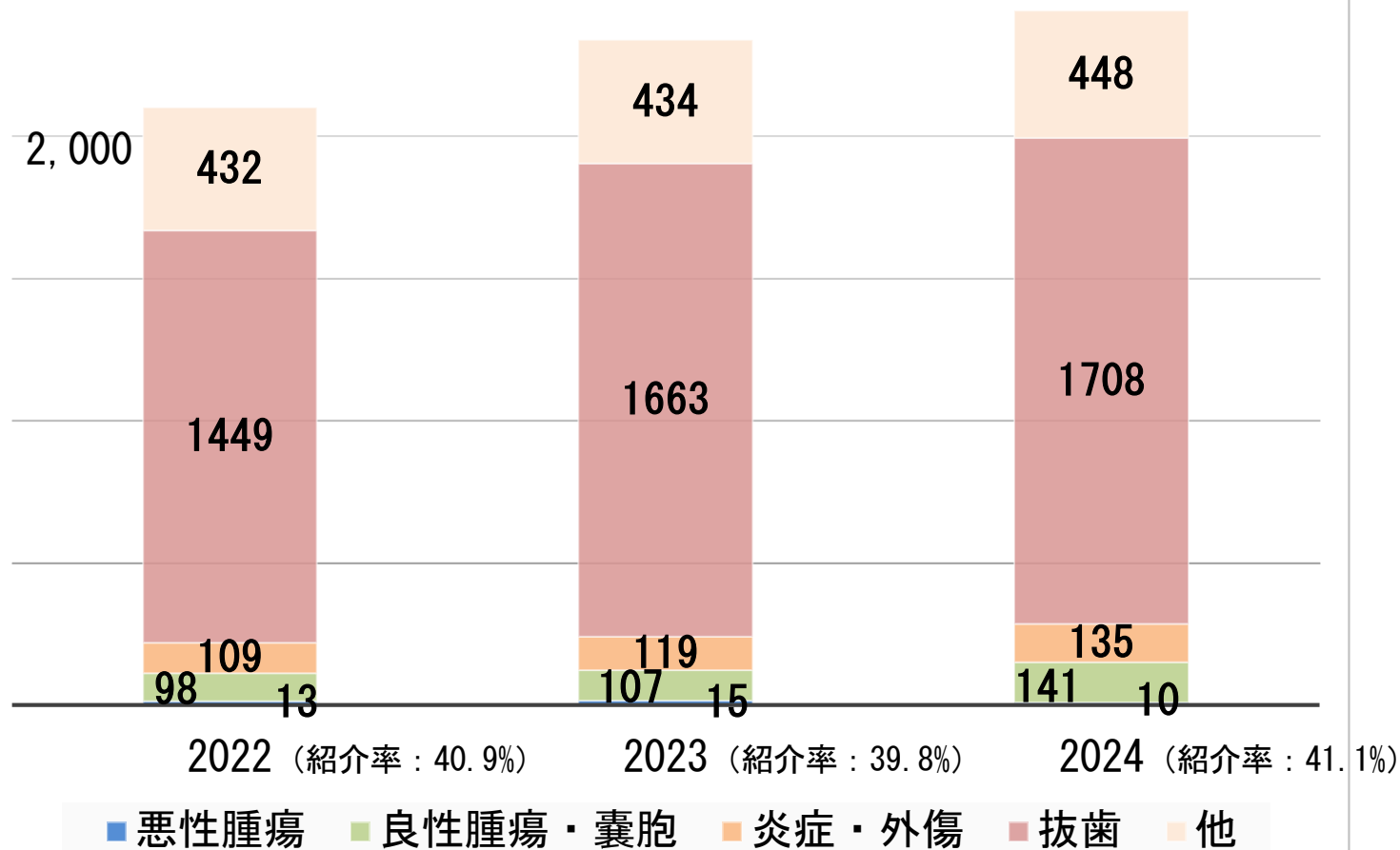
歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

ある急性期病院における初診患者疾患別分類（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



歯科医療提供体制等に関する検討会

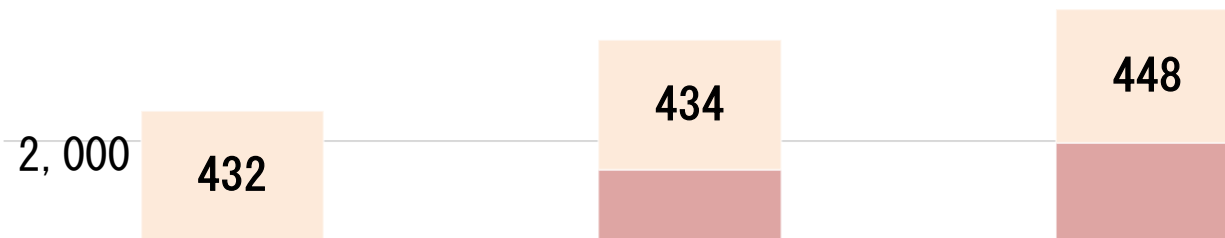
歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

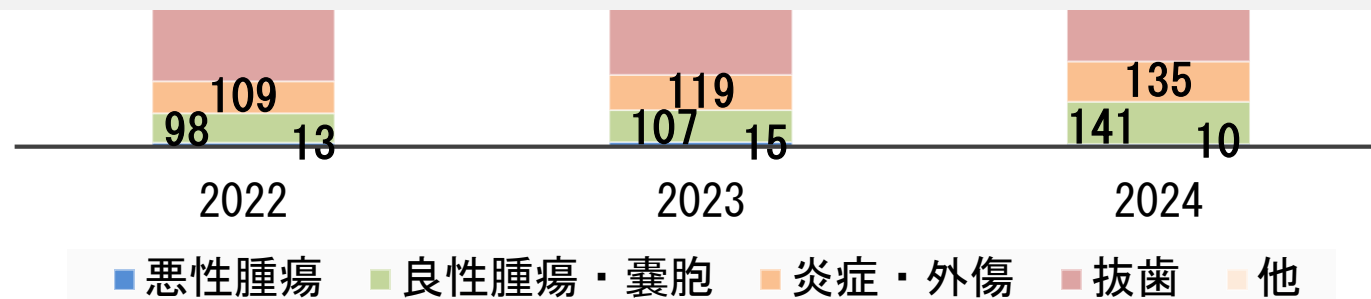
ある急性期病院における初診患者疾患別分類（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名



問題点

- ・ 抜歯が必要な症例が多い。
とくに、いわゆる有病者＝全身管理が必要な症例も多い。
→ 超高齢社会となった現在、有病者は増加してくることが予想される。
- ・ 悪性腫瘍，炎症性疾患も増加してくる。



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



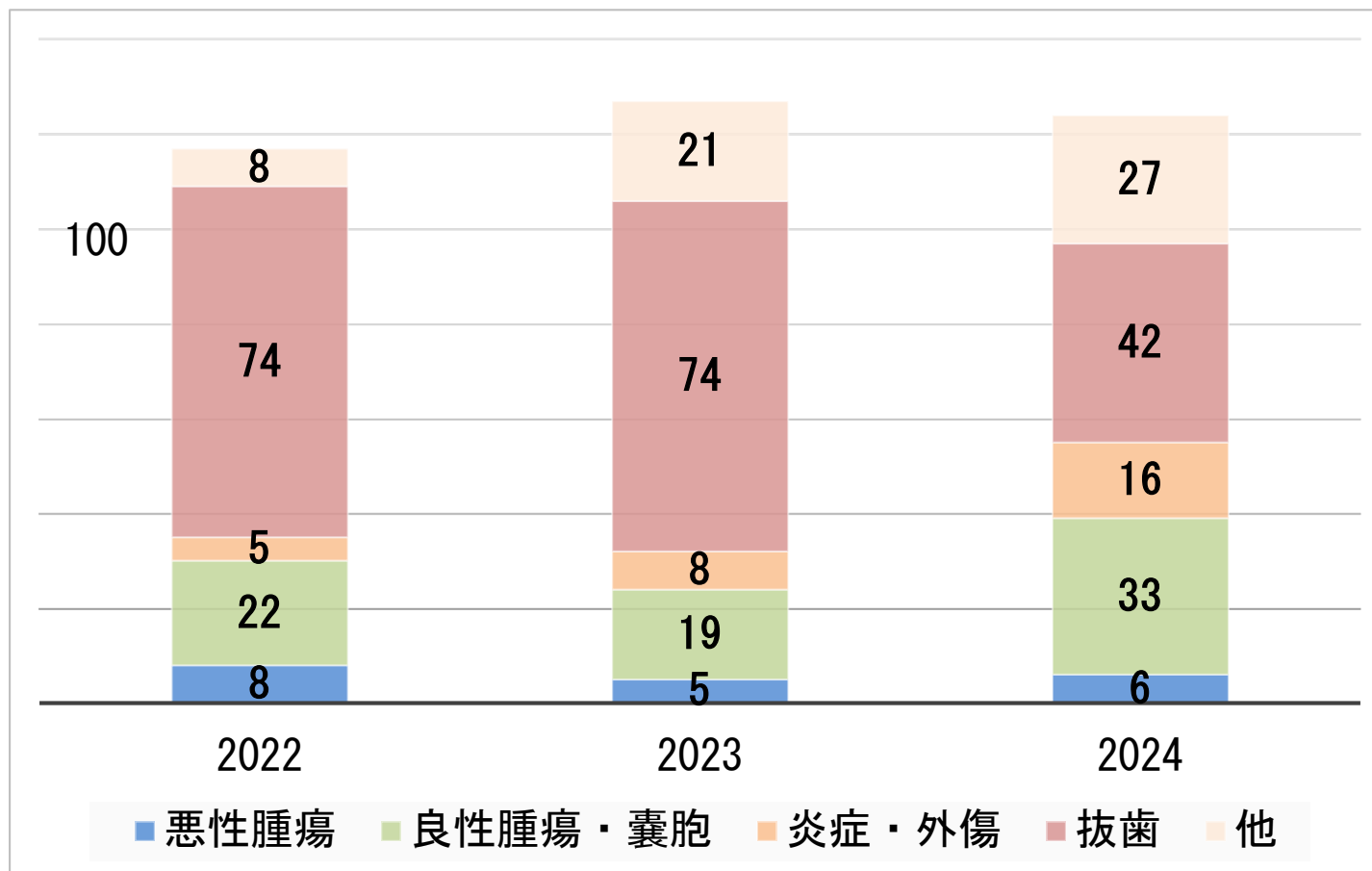
歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

ある急性期病院における疾患別全麻手術症例（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名



根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



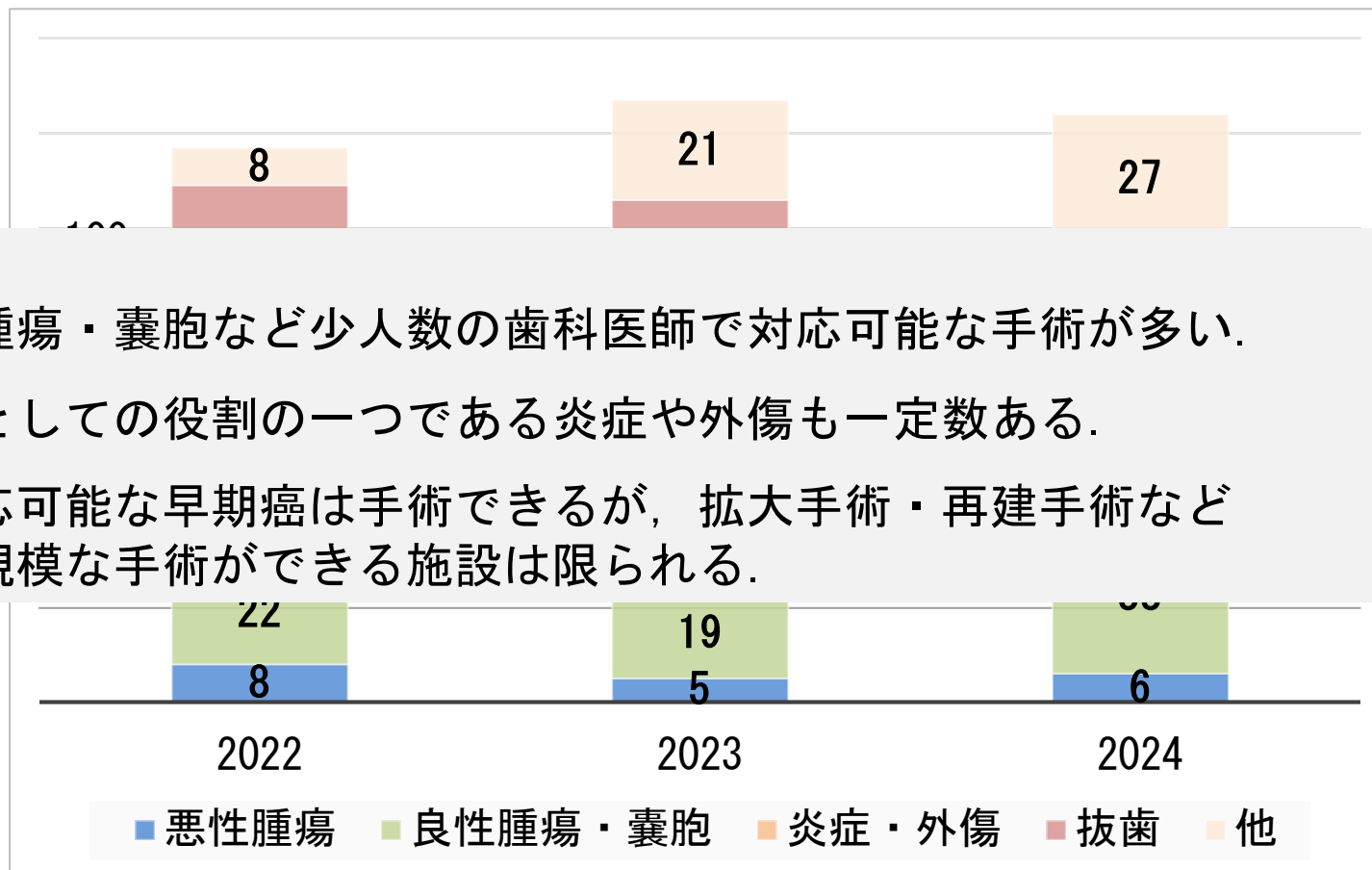
歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

現状

ある急性期病院における疾患別全麻手術症例（国立病院機構横浜医療センター歯科口腔外科）

歯科医師 2名
歯科衛生士1名



問題点

- ・ 拔牙や良性腫瘍・嚢胞など少人数の歯科医師で対応可能な手術が多い。
- ・ 急性期病院としての役割の一つである炎症や外傷も一定数ある。
- ・ 少人数で対応可能な早期癌は手術できるが、拡大手術・再建手術など長時間で大規模な手術ができる施設は限られる。

根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



骨太の方針 2023 では

- ・ リハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進を図る。
- ・ 全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積・活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組の推進、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、
歯科医療機関・医科歯科連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、
歯科衛生士・歯科技工士等の人材確保の必要性を踏まえた対応、

中央社会保険審議会 (2023/ 5/31)

歯科医療提供体制等に関する検討会 「病院歯科の役割」 では

口腔の管理を行うことにより誤嚥性肺炎の発症予防につながることや、周術期における口腔管理により在院日数の短縮につながること等、近年、口腔と全身の関係について広く指摘されており、
入院患者等に対する口腔管理を通じて行われる医科歯科連携の観点からも、病院歯科の役割は大きい。

病院歯科を地域の拠点として、当該地域の歯科医療提供体制を検討することは
有用な一つの方法であると考えられる。
なお、病院歯科の設置を新たに検討する際は、今後の人口減少等も考慮し、
既存の歯科医療資源の再構成等による機能分化の観点について検討することも
大切である。

課題

急性期病院歯科における問題点と課題

- ・ 歯科医師・歯科衛生士がたりない
 - 病院歯科を希望する歯科医師が増加するような方策
 - 全国病院歯科医協会による啓発活動
 - 歯科衛生士の待遇改善
 - 開業歯科より低い給与水準の改善
(国立病院機構では非常勤の時給は最低賃金に近い)
 - 受入施設の規模で増員が困難
 - 急性期病院の機能分化を進め、地域内での連携を強化
- ・ 入院患者に対する重要なケアのひとつである口腔ケア
 - 毎日実施している看護師の負担が大きい
 - 「病棟歯科衛生士」制度の導入（≡病棟薬剤師制度）
 - 教育・診療報酬加算

根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長



歯科医療提供体制等に関する検討会 歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ

2025/10/16

2040年を見据えて

急性期病院歯科では

- ・ 少人数の歯科医師・歯科衛生士で日々の診療を行っている施設が多い。
施設の制限により設備の拡充や増員は困難であることが多い。
- ・ 超高齢社会となったが、医療の進歩により、手術や化学療法などが適用できる疾患が増加している。
そのため、周術期口腔機能管理や治療後の回復のためのリハビリ・口腔機能回復への対応も必要となっている。
- ・ 地域において回復期・慢性期病院との連携や急性期病院を機能分化し役割分担を進めていくことが必要ではないか。
- ・ 救急搬送や通院が困難となる過疎地の解消（人口の集約化＝コンパクトシティ）が今後の行政には必要ではないか。
- ・ 歯科衛生士の待遇改善と活躍の場の拡充が必要である。

根岸 明秀

国立病院機構 渋川医療センター 歯科口腔外科
全国病院歯科医協会理事・前国立病院機構歯科口腔医療協議会会長

